

令和4年度卓越した技能者の表彰各部門を代表する技能者について

(目次)

第 1 部門	植田 充紀	(手かじ工)	第 11 部門	山本 辰雄	(造園師)
第 2 部門	小林 智	(仕上機械工)	第 12 部門	森 俊次	(陶磁器製造工)
第 3 部門	原 拓也	(製缶工)	第 13 部門	川口 博敬	(木製家具・建具製造工)
第 4 部門	藤澤 隆一	(金属加工機械組立工)	第 14 部門	寺井 則彦	(洋生菓子製造工)
第 5 部門	山本 浩二	(配電盤・制御盤・ 開閉制御機器組立工)	第 15 部門	武藏 均	(理容師)
第 6 部門	森 勝利	(鉄道車両組立工)	第 16 部門	秋山 弘	(すし職人)
第 7 部門	小玉 紫泉	(織布工)	第 17 部門	宇野 保夫	(表具師)
第 8 部門	芹澤 國夫	(紳士服仕立職)	第 18 部門	伊藤 清光	(機械製図工)
第 9 部門	中里 政義	(建築大工)	第 19 部門	又吉 章盛	(楽器製造工)
第 10 部門	武内 昭人	(潜水作業員)	第 20 部門	朴 栄光	(コンベンションエンジニア)

※ 職業部門、氏名(敬称略)及び職種を記載。

1	うえだ みつとし 植田 充紀	71歳	手かじ工 【参稔工房 TEL:075-321-1077】	《名簿番号5》
				京都府推薦

○【打てば響き、磨けば光る】

氏は、金属の性質を熟知し、成形から最後の仕上げまで一貫制作をしている。金属工芸における伝統的な鍛金技術を駆使し、特に難しいとされる煮込み着色にも優れ、素朴でありながら緻密で繊細な氏の作品は業界でも高い評価を得ている。伝統工芸品で培った鍛造技術による氏の作品は、軽量で使い勝手が良いことが特徴である。

また、組合理事として若手職人に技術のアドバイスをするなど後進の育成にも熱心である。

【常に完成度を求めて努力とチャレンジを欠かさず十分に充足出来るまでネバーギブアップである。】

何かを作るという行為は原初的な行いであり、それに惹かれたのは極自然な成り行きで、運よく良い師に巡り会え、正に「求めよさらば与えられん」であり、あとは「好きこそ物の上手なれ」である。

仕事に関連して色々といやな事柄が出て来るのは何処も同じであるが、それは苦勞と言うよりくだらない事だった様に思われる。技術の習得などの苦勞は、楽しい思い出のひとつである。

本人近影



【作業風景】



角板を伸ばして立体に成形し、松ヤニを使って金鎖で模様を出す。

【鎖起四分一銀花器】

2	こばやし さとし	67歳	仕上機械工	《名簿番号12》
	小林 智		【千曲技研株式会社 TEL:0267-88-3173】	長野県推薦

○【揺るぎない技術、精度仕上げに挑戦を続ける匠】

NC加工化が進む中で汎用機にも強い拘りを持ち続け、NCでは加工する事の難しい薄物加工、微細調整が必要な現物嵌合など、サブミクロン精度の仕上げを実現する優れた技能を有する。

製造現場では、最先端NC装置と汎用機、自社開発した傾斜式鋳造機等の専用機を効率的に融合させ、多品種少量生産にも対応する固有技術を生かした製造ラインを構築し、業績向上に貢献している。

自らの背中を見せながら社内の技能研鑽環境を整え、社員を指導し後進の指導育成に継続的に取り組んでいる。

○【失敗を恐れず強い心で常に挑戦】

中学卒業後ものづくりの基礎を学び、出稼ぎの父、賄い仕事に出る母と揃って正月を迎えたい一心から、18歳で「小林製作所」（現千曲技研）を父と創業。当初はバルブメーカーの下請けとして徹夜の毎日。その後、自動車二輪の金型を手掛けるようになるが、いかに短納期、高精度で仕上げる事が出来るか長きにわたり試行錯誤の毎日であった。

会社の成長に伴い、培った技術を後進に伝える訓練場「チャレンジ道場」を敷地内に創設。技能五輪全国大会選手も輩出している。さらに、「ものづくりマイスター」として企業、高校等で指導にあたる。今後は「現代の名工」として、更なる技術の普及、地域貢献に努めたい。

本人近影



〔門型平面研削盤にて作業風景〕



〔ブロー成型金型部品、ダイカスト金型部品〕

3	はら たくや 原 拓也	54歳	製缶工 【三菱重工業株式会社 神戸HRビジネスパートナーグループ TEL:080-8934-5499】	《名簿番号19》
				兵庫県推薦

○【高い技能と豊富な経験で多岐にわたる工事を完遂】

昭和61年の入社以来、35年余にわたり、水力発電プラントの水圧鉄管、明石海峡大橋の主塔、原子力発電プラントの最重要機器であり、総重量約3,300トンの原子炉格納容器等の大型溶接構造物の製缶作業に従事し、高い技能と豊富な知識・経験により第一人者と目され、多くの工事を完遂してきた。

近年は福島第一原子力発電所向けの汚染水貯蔵タンクの製作・据付技術の指導を行い、100基以上の製作を完遂した。現在はその技能を活かし、現場での安全・技術指導を行い、製品作りと人作りに貢献している。

○【仕事に対し真摯に向き合うことで技能向上と人間力の向上を図る】

ガス切断及びプレス成型を行う加工職として配属した際、先輩から「後工程がスムーズに作業を行うには前工程の精度次第」と教わり、先輩の仕事を観察して覚えた事を自ら実践し、後工程の組立職に出来栄を確認する事を意識してきた。その後組立職として従事した際は、前工程の作業経験を踏まえ、前後工程が全体最適となる事を意識したモノ作りに取り組んだ。多職種の経験を通じて、自身の技能向上及び人間力向上においては、前向きな姿勢と積極的なコミュニケーションが一番大事であると感じた。

現在は、後輩の目線に立ち、後輩の成長を互いに共感出来るような指導を心がけている。

本人近影



[鉄骨構造物の組立指導]



[原子炉格納容器の現地据付]

4	ふじさわ りゅういち	56歳	金属加工機械組立工	《名簿番号27》
	藤澤 隆一		【ヤマザキ マザック マニュファクチャリング 株式会社 美濃加茂製作所 第二工場 TEL:0574-24-1121】	岐阜県推薦

○【臨機応変、正確無比な組立の第一人者】

金属工作機械の組立業務に長年にわたり従事し、特に重要部品である主軸の組立・調整技能に優れている。組立は現合（げんごう）の積み重ねを信念とし、体得した微妙な力加減や手仕上げで部品を限りなく零 μ mの精度にすることができ、異音箇所などの官能検査及び勤所作業の数値化を進め、工作機械の高精度・高品質化に貢献している。

社内における技能士会役員として社内の技能士育成と普及に努めるとともに、社外では児童・生徒や中小企業若手技能者等へ技能を伝承している。

○【終わることなき技の向上、先人の知恵を学び、常に考える】

最初の仕事は工作機械の心臓部である主軸の試運転検査だった。音の違いを聴き分け、振動を触診してどの部位が悪いのかを判断することに大変苦勞した。組立では部品の精度が数 μ m違うだけで、工作機械として完成したときに音や振動、加工精度が大きく違ってくる。社内教育で理論を学び、熟練した多くの先輩に師事して勤所を体得し、数値化により標準書を作成できた喜びはひとしおだった。

中学校でものづくりの楽しさを覚え、工業高校では専門的知識を得ることができ、入社して数多の成功と失敗を経験して会社に育てもらった。標準化の大切さは身に染みて解っているが、お客様が必要としているものを創るには経験と勤も大切だと考える。

まだまだ未熟だが、先人に追いつくように技を磨き、自分の技と思いを後進に伝承すべく頑張っている。

本人近影



[微妙な力加減で寸法・幾何公差を高精度にする]



[数値制御旋盤のミル主軸、メイン主軸、サブ主軸(左より)]

5	やまもと こうじ 山本 浩二	54歳	配電盤・制御盤・開閉制御機器組立工 【株式会社デンソー 広報渉外部 TEL:0566-55-9733】	《名簿番号39》

○【生産設備の制御（ハード、ソフト）に精通した設備づくりのプロフェッショナル】

電気機器組立て・制御の分野に精通し、正確かつスピーディーに配電盤・制御盤を組み立てる技能に卓越している。これまで300台を超える生産設備を製作し、特に最新機器を駆使した生産設備においてPLC制御装置を使いこなし、シーケンス制御で品質・生産性の向上を成し遂げた。

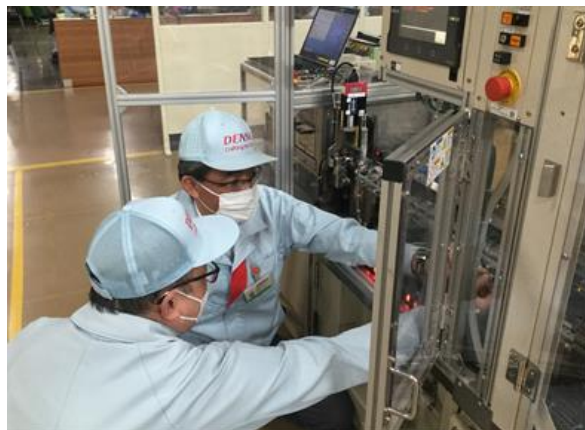
自身が技能五輪全国大会（工場電気設備職種）で金メダルを獲得した後は、自社の技能五輪選手への指導を行い、金メダリストを輩出している。また、中央技能検定委員を務め、技能者育成にも貢献している。

○【品質と安全を制御で堅守】

高校3年生の時、ニュースで知った技能五輪国際大会（大阪大会）の選手に憧れ、現在の会社に入社。その後、幸いにも技能五輪の訓練を受けられることになり、技能者としての道を歩み始めた。訓練で学んだ「良い製品を作るためには細部への拘りが重要」を念頭に、担当した生産設備づくりでは、「設備の操作に従事される方の安全と、生産される製品の品質確保」を最重要項目と考え業務に励むとともに設計部門と連携し「品質と安全を叶える制御と、その考え方の標準化」に尽力した。

また、日本の量産を支えてきた生産設備や、制御分野に従事する人々がより評価されることを夢見て、技能を伝承し後進の育成に努めている。

本人近影



[生産設備の調整作業]



[現地・現物で、設計・製作メンバーへの指導]

6	もり かつとし	60歳	鉄道車輛組立工	《名簿番号47》
	森 勝利		【日本車輛製造株式会社 TEL:0533-85-4114】	団体推薦

○【鉄道車両の部品組立・溶接施工方法の改善に貢献】

車体部品における多種多様な溶接部品組立に関して、国内外の通勤・特急車両や新幹線の溶接施工・部品組立方法の確立に携わった。優れた溶接組立技術を有し、その技量や知識を生かし、段取り、溶接作業を削減する新たな治具開発・製作などに積極的に取り組む事で品質向上や技能伝承、若手育成に大きく貢献した。若手教育では、溶接品質や図面読み取りについて、実際の製品とほぼ同等な実物の教材等を作成し、自ら手本を見せ、溶接部品組立・検査技量向上と的確な技量把握の教育を実践している。

○【知るにより広がる可能性】

何をするにも好きになることが大事だ。『まずは本気で取り組む→少し楽しくなる→続く→上達→必要とされる→好きになる』このサイクルを大切にしてきた。そして、自分の仕事に興味を持つ。今何を作っているのか、自分の携わった部品を次工程・次々工程へと追いかけてゆく。自分の携わったものは何処に使われるのか、どう変化していくのかが見えてくる。知らないことを知ると今すべきことが見えてくる、何が無駄か何が必要か。経験により知識を得、能力・スキルが身に付き考えが広がる。人からの指示ではなく、自身の目線で、課題を見つけてより好ましい・より望ましい状態にし次世代に合った最適な技術・技能に進化させる手伝いをしていきたい。

本人近影



[溶接作業風景]



[HC85系側柱]

7	こだま しせん	70歳	織布工	《名簿番号50》
	小玉 紫泉		【株式会社織匠小玉 TEL:075-465-5484】	京都府推薦

○【伝統的なつづれ織に独自の織技術を融合】

氏は西陣爪搔本綴織の職人であり、デザイン企画から材料の選定、製織まで行っている。西陣爪搔本綴織は、経糸を文様の部分だけ杼ですくい、ノコギリの歯のように刻まれた爪や筋立てで、緯糸をかき寄せながら一人で少しずつ織っていく技法で、職人のセンスや高度な技術が要請される。この伝統的な技法以外に飾り紐と一体化した織物の製織技術を考案し、実用新案を得ており、氏のオリジナル作品は国内外で評価が高い。

また、マスメディアでの出演、女性伝統工芸士展等を開催するなど、西陣爪搔本綴織の発信や高度な技術力、ブランドを全国に知らしめ、職人の地位向上や業界の発展にも貢献している。

○【誰もが楽しく幸せに感じられ、立体的かつ芸術的な帯と作品】

自分で図案を描き織ることが出来る「つづれ織」に28歳で出会い、難しい作業ゆえ生涯をかける仕事と確信。

指の爪で織る細かい作業なので、とてつもない根気が必要。

不況の時ほど日頃考えていた織り方の研究チャンスと捉え、独自の技を磨いてきた。立体的かつ芸術的な帯の考案を自身の織人生のテーマとし、他人（ひと）に驚きと感動を与え、また笑顔になっていただく作品作りに日々精進している。

本人近影



【製織風景】



古代エジプト文明
出土デザインに
オリジナル立体織を融合

【題名「エジプト」】

8	せりざわ くにお	74歳	紳士服仕立職	《名簿番号56》
	芹澤 國夫		【セリザワ洋服店 TEL:055-992-0313】	静岡県推薦

○【基本を大事にし、独自の製図法を取得して技術を磨く】

着心地と美しさを兼ね備えた紳士服を作り出すために、改良を重ねて独自に考案した方法を用いて製図し、ミリ単位で作り上げる縫製技術など高度な衣服製造技能を有している。

平成29年に開催された第29回技能グランプリでは、金賞を受賞し、その高い縫製技術を勉強会、講習会等で披露し後進の指導育成にも力を注いでいる。

○【着心地はもちろんのこと、見た目の仕上がりにもこだわった洋服作りに専念する】

幼いころ、姉が洋裁でミシンを使っている姿を見て、自分も興味本位でミシンを扱っているうちにファッションにかかわる仕事をしたいと思うようになり上京。縫製の知識も技術もないまま知人の紹介で弟子入りしたが、兄弟子の仕事を見て覚えるしかなく、より高度な技術を求め、東京へ修業に出た。

ポケット作り、袖作り、穴かがり等、部分的な作業ではあったが、技術を早く身につけるために繰り返し練習を行った。教えは厳しくても、大好きな洋服作りに携わることには苦はなく、技術を磨いて半世紀。技術の向上に終わりではなく、現在も研究グループで勉強を重ね、お客様に着心地が良いと喜ばれる服作りに専念している。

「生涯現役」を目標に惜しみなく力を注いでいきたい。

本人近影



[襟付けの作業]



[第29回技能グランプリ受賞作品]

9	なかさと まさよし	67歳	建築大工	《名簿番号61》
	中里 政義		【株式会社 大山建工 TEL:0178-21-3055】	青森県推薦

○【伝統を現代に、自然の木がもつ魂を建築に生かす】

建築大工として長年従事し、古くから日本に伝わる伝統工法の技能に卓越しており、棟梁として日本各地の「数寄屋建築」や伝統的
日本建築を手掛けている。さらに、数寄屋建築に特有の屋根の形状である「起り」の微妙な曲線の美しさに定評があり、寸分の隙間なく接
合させる技能を有し、数々の建築賞を受賞している。

また、全技連マイスターやものづくりマイスターとして、小中学生の児童・生徒を対象に、伝統的な技能を紹介する体験指導講師を務
めるなど、伝統建築の魅力を発信している。

○【受け継いだ技能をもとに繊細な美意識を作り出す】

16歳で大工修行に入って以来、自然の木を生かした数寄屋の建築美に魅了され、京都をはじめ全国の古い建築を見て回り、独学で数寄
屋技術を修練してきた。

また、雪深い青森では、構造を堅固にする必要から、流通材に頼らず、山に育つ大径木から木取りをすることで、民家に受け継がれた
大材を使った木組みの架構を工夫しつつ、自然の柵目を生かした繊細な空間を作り出したいと取組んできた。

美意識を高めることは、技能の向上にも繋がると信じ、伝統は現代にこそ生かさねばと思っている。木組みを用いた架構の力強さと、
緊張感みなぎる繊細な数寄屋仕事を合致させることで、現代における木造建築の可能性を、今も探求している。

本人近影



【八角に整えた丸太の墨付け作業】



【京都府大徳寺瑞峯庵茶室「餘慶庵」の修理】

10	たけうち あきひと	60歳	潜水作業員	《名簿番号76》
	武内 昭人		【株式会社鉄組潜水工業所 TEL:054-334-0988】	静岡県推薦

○【知識と経験を基に潜水作業の技術の伝承と育成に取り組む】

潜水士という特殊な職業において、港湾に関する工事・調査を中心として、波浪、潮流、水圧、浮力等、水中での特異な条件の中、数々の成果・実績を挙げてきた。水中での視界が十分確保されていない（水の濁り、光が届かない水深等）状況下においても、長年培った経験をもとに、目的とする構造物の出来形や調査結果を的確に判断できる卓越した技能を有している。

また、関連する資格や講習会の講師なども務め、後進の育成を図っている。

○【潜水作業者の育成と技術の伝承】

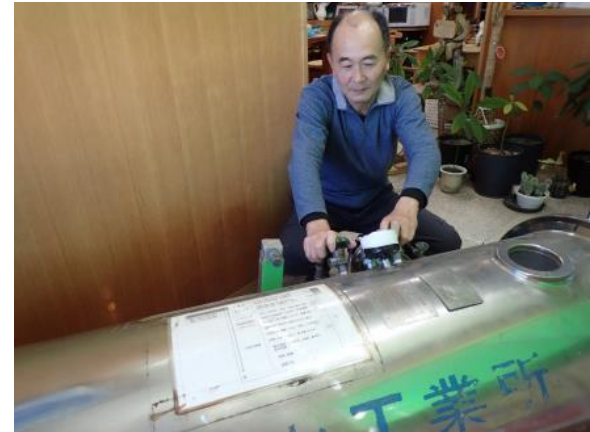
港湾潜水作業（ヘルメット潜水）を行う父の姿を見て育ち、学生時代から、長期の休暇時には少しでも早く仕事を覚えようと父の仕事に同行し、潜水業務に従事した。卒業後、現在の会社に入社し、今日まで港湾工事をはじめ、多種多様な潜水業務に安全・安心・無事故無災害を基本理念とし携わってきた。

現在は、潜水業務に携わりながら、経験と資格を基に大学や法人において講師を務め、潜水業務に必要となる資格修得講習や潜水技術修得講習に携わり、潜水作業者の育成と潜水技術の伝承に取り組んでいる。また、広く一般に潜水を理解してもらうためにダイビングスクールにも携わっている。

本人近影



[基礎捨石均し技術の様子]



[再圧室操作作業特別教育の指導状況]

11	やまもと たつお	68歳	造園師	《名簿番号80》
	山本 辰雄		【小嶺造園 TEL:093-612-0210】	福岡県推薦

○伝統を重視し現代社会と調和の取れた人に優しい庭園造り

造園施工の基盤となる石組・石積みを得意とし、形状が不揃いの自然石に様々に変化する雲の形を石積みに取り入れ自然の景観造りに成功。敷石・延べ段の施工では、自然石を短冊状に長く加工して、お年寄りに歩きやすく庭の散策が出来るように工夫している。

また、造園技能検定委員として技能検定全般に尽力するとともに、厚生労働者ものづくりマイスターとして、小学生を対象とした「おごと体験教室」や福岡県内の高等学校に実技指導に取り組み、職人としての誇りや素晴らしさを教えている。

○伝統的日本庭園を継承する

伝統的日本庭園に魅せられ、造園の道に入職して46年間。

4年間で造園工としての基礎を身につけ、毎年行われる全国都市緑化フェアや技能五輪指導者研修会など研修生として参加し、全国の名だたる親方に指導を受け自己研鑽に努めた。

特に石積みについては研鑽を怠ることなく、全国組織である(一社)日本造園組合連合会の各県支部の協力の下、視察をするるとともに指導を受け、腕を磨いた。

現在では、技能検定・技能五輪・技能グランプリなどの指導者として後進の育成に尽力している。

本人近影



[切石の中に石臼をはめ込む作業]



[古材の切石を使用し表情豊かな小端積みを作成]

12	もり しゅんじ 森 俊次	65歳	陶磁器製造工 【株式会社森俊山 TEL:075-561-9333】	《名簿番号81》
				京都府推薦

○【「何歳になっても修行」です】

氏は尾形乾山の作風を得意として、京料理の器や、普段使いの食器を制作している。中でも乾山のデザインに合わせた透かしの進化形を目指し、二重構造の透かし彫りの器を制作している。長年にわたり国内外向けの食器を生産し、平成23年に経済大臣指定伝統工芸品京焼・清水焼成型部門の「伝統工芸士」に認定された。

また、氏が主宰する俊山窯では20名以上の若手が独立しているなど、後進の育成にも注力してきた。

○【目指せ「平成乾山」】

江戸時代に活躍した尾形乾山のデザインや技術に感銘を受け陶業に入り込んだ。300年前は粘土、釉薬等の原材料の調達が不安定かつ、精度が低く、さぞ苦労の連続であったろう。

現在でも当時のような色合いを表現する為、色見サンプルを幾度となく試行するも、納得に至るまでは長い道のりである。

乾山の作品が現代でも感銘を受けることは、精神、技術、デザインは神技とも言える。今では原材料の調達、温度管理が容易くなり、私自身、もっと生活に潤いを与える作品が出来て然るべきである。

私は常に尾形乾山が今の時代に生きていたら、このような作品を作るのだろうと、想いを馳せながら陶磁器を楽しみながら制作している。

本人近影



【轆轤にて、成形しているところ】



【二重構造による「紅葉透かし鉢」】

13	かわぐち ひろゆき	46歳	木製家具・建具製造工	《名簿番号89》
	川口 博敬		【川口木工所 TEL:0531-23-4901】	愛知県推薦

○【繊細さと美しさを追求した組子細工】

薄さ0.3mmの組子材で組子細工を製作できる極めて優れた技能を有している。製作難易度の高い「二重本籠目」を薄さ1mmの組子材で二重の間隔を狭く美しく製作する技能は唯一無二である。全国建具展示会で二度の内閣総理大臣賞、技能グランプリで金賞など、建具業界の二大大会で最高賞受賞の快挙を果たしている。小学生を対象とする木工教室や一般向けの技能講習会の講師のほか、技能五輪全国大会建具職種の競技委員を務めるなど業界の発展、後継者育成にも貢献している。

○【父の背中を追い建具の世界へ】

幼少の頃から工作が好きで父の作業場でおが屑や残材の木片で遊びながら育った。傍らで、一人で多くの仕事を同時進行し、全国建具展示会や技能グランプリにも挑戦し続ける父の背中を見てきた。その背中を追い、建具業界に入り、父の元で修行を重ねた。いつか自分も全国建具展示会や技能グランプリに出場して頂点に立ちたい、挑戦したいという気持ちで仕事に励んだ。目標を達成した今も建具の技能の奥深さを感じ、日々精進している。今の自分があるのはお客様や先達の努力と知恵のおかげである。今後も、より良い製品を制作することで、組子細工の素晴らしさを多くの人に知ってもらえるよう建具の可能性を追求していくとともに、次世代へ技能や知識を伝えていきたい。

本人近影



〔組子細工「梅鉢」の組立作業〕



〔第45回全国建具展示会 内閣総理大臣賞受賞作品
組子屏風 幅5m〕

14	てらい のりひこ 寺井 則彦	57歳	洋生菓子製造工 【有限会社ドゥーゼンヌ TEL:03-5988-0330】	《名簿番号97》
	団体推薦			

○【世界のパティスリー界のエリート】

内外の一流店での研鑽を通してフランス菓子の知識・技術・エスプリを身に付けた氏は、味をコントロールする感性と技能に優れ、フランス菓子の現代性を体現して、世界のパティスリー界のエリートと称されており、トップクラスのパティシエにしか入会を認められない「ルレ・デセール」のメンバーでもある。

また、氏が考案したケーキの型は新しいケーキのスタイルを築いた。平成15年に製菓の国際コンクール「クープ・デュ・モンド・ドゥ・ラ・パティスリー」で準優勝し、日本の製菓業界に大きな影響を与えた後は、後進の指導・育成にも尽力している。

【利益や利便性に傾くことなく、おいしい菓子作りにこだわる職人であり続けたい】

子供の頃から食べる事が好きで、小学生の頃から自分で料理を作っていたが、バターや砂糖、小麦粉など形の無いものから形と味を作り出す製菓の仕事に魅力を感じてパティシエを志す。ヨーロッパでの研修中には、語学や文化の違いで大変な思いをし、苦勞もした。

仕事に関しては、利益や利便性に傾くことなく手間を惜しまず味優先の菓子作りを心掛けており、基礎材料（副材料）の手作りはもちろん、多店舗展開することなく売場の隣で作り、モンブランやミルフウユなどは作り立てを提供するなど、鮮度を優先したおいしい菓子作りを徹底している。

本人近影



〔ケーキの生地を型に絞り入れる様子〕



寺井氏が考案した
スリムな型による
バリエーション
豊かなケーキの
数々

〔作品写真「ケーキ」〕

15	むさし ひとし	61歳	理容師	《名簿番号105》
	武藏 均		【ヘアーサロンムサシ TEL:047-339-2040】	千葉県推薦

○【卓越したカット技法を有し後進の指導育成で理容業界に貢献】

氏は業界の第一人者であり、時代時代の流行にあわせた髪型を整えるカットング技法をはじめ、多くの理容技術において深い知識と高い技術を有している。

特にマテリアルカット（質感カット）の一つの技法であるスライドカット技法に優れ、変幻自在に髪の毛を操る卓越した技能により、自由自在に顧客の望むヘアスタイルを提供している。

自店従業員の育成を積極的に行うだけでなく、全国理容生活衛生同業組合連合会の中央講師としても全国に出講し、多数の理容師を指導する等、後進の指導育成に多大な貢献をしている。

○【『心に触れる技』こそが、仕事の本質である】

一般企業に誘われていた時の、父親の寂しそうな背中を見て、家業を継ぐことにする。その父親が倒れて、修行半ば2年9か月の短さで実家に帰り、仕事が上手にできず、失客を繰り返す中で、如何にお客様に喜んでいただけるかを考え創意工夫、技術の向上に励んだ。

人との触れ合いから始まり、人によってしかできない『心に触れる』ことを必要とし、そして画一的ではなく個々に合わせた『技』を提供する。

この流れに沿った素晴らしい業の仕事『技』を、今後もさらに研鑽し、人と人との絆を大切にしながら、次の時代の若者に伝え人材の育成、大きくは社会貢献というミッションのもと頑張りたいと考えている。

本人近影



[スライドカットの作業風景]



[流れと軽さを活かしたショートボブスタイル]

16	あきやま ひろし	86歳	寿司職人	《名簿番号122》
	秋山 弘		【有限会社寿司金 TEL:03-3357-5050】	一般推薦

○【匠の技】

微妙な味わいを持つ本マグロの各部位、赤身・カマトロ・ヒレ下・中トロ・大トロについて、微妙な味わいを持つ良質な各部位を発見しマグロの旨味の世界を深耕した。コハダは江戸時代の技法を用いて酢を強くしめ、甘味のある海老そばろと合わせた酸味と甘味の塩梅は素晴らしい。その他のネタに関しても吟味し繊細かつ魚の持つ味わいを深く表現する技を伝承し、世界に伝え、世界的なシェフにも影響を与えている。

若手の寿司職人から懐かれ、この伝統を学びたいと多くの職人に押しかけられ指導している。

○【仕事の心構え】

私はある時から最近の若い寿司屋さんを見て思う事がある。
寿司も凄い速さで進化してます。

「古くても正しい物は何時の時代も常に新しい」と言う事を残す為に趣味のように仕事をしています。

本人近影



[マグロを切り出す作業]



[マグロの握り（ヒレ下・中トロ・カマトロ・スナズリ）]

17	うの やすお 宇野 保夫	79歳	表具師 【株式会社南古堂 TEL:0898-48-0765】	《名簿番号129》
				愛媛県推薦

○【唯一無二の素材を見つめて尊重とこだわりの匠の技】

表具内装業に長年従事し、高度な裏打ちの技術を用いて、歴史的価値のある表具について修復を行っている。

同質の修復材を見極める高い観察力をはじめ、多くの工程に及ぶ修繕作業全てに卓越した技能を有し、大山祇神社の國寶館にある東郷平八郎が残した書物修復をはじめ、寺の客間の金張り修復、江戸時代に作成された作品の修復など、数々の歴史的価値がある表具を修復させ、次世代に語り継ぐ表具の保存に大きく貢献している。

また、ものづくりマイスターとしての活動や、個展の開催により表具の魅力を県内外に広く発信している。

○【頑固一徹律儀な職人氣質】

南古堂を創業した養父の懇願と技能グランプリで第1位労働大臣賞受賞の兄弟子、池邊正義の独立開業を機に後継者になることを決意する。

歴史的作品の修復作業にあたっては、貴重かつ重要な作品に向き合い、工程の構想を練ることに時間を費やし万全を期す。

一方で、日本古来の屏風と着物を現代アートに融合させたオリジナル作品は、海外で称賛を浴び、遠く北海道から九州まで個展を開いている。尽きることのない意欲、発想力がまた新たな希望を見出し、次世代を担う人材育成にも尽力している。

伝統的工芸となる表装の文化は、技術、技法が問われる。多くの人に感動や喜びを与える表具師として真摯に取り組む姿勢を崩さず、今後も今まで培った技能や経験を糧に勇往邁進する。

本人近影

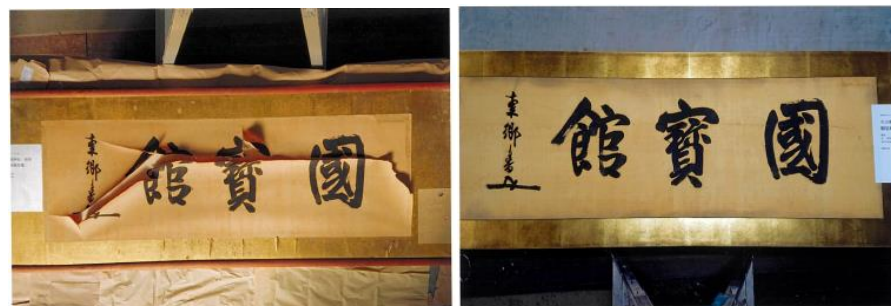


作業風景写真



[本金を張る為の下張りの和紙の喰い裂き作業]

作品写真



[代々受け継いだ墨づくりの手法を用いて修復した書額]

18	いとう きよみつ 伊藤 清光	59歳	機械製図工 【小林工業株式会社 TEL:0184-22-5320】	《名簿番号136》
				団体推薦

○【柔軟な発想による独創的な金型デザインの実践】

金型設計等の機械製図工に関する技能に卓越し、これまで業界では難しいとされていた超硬、セラミックスのスローアウェイチップ成形用金型（複雑形状の粉末冶金部品の成形を可能とする粉末冶金用金型）を設計し、その技能は国内で第一人者と目されている。

また、高精度成形体を実現するための金型構造の考案を行い生産コスト30%削減を可能とする金型を開発した。現在は社内だけでなく日本の技能者育成のために職業訓練指導員免許を取得し、後進技能者の指導・育成にも貢献している。

○【ものづくりにおける品質とコストは設計段階で8割決まる】

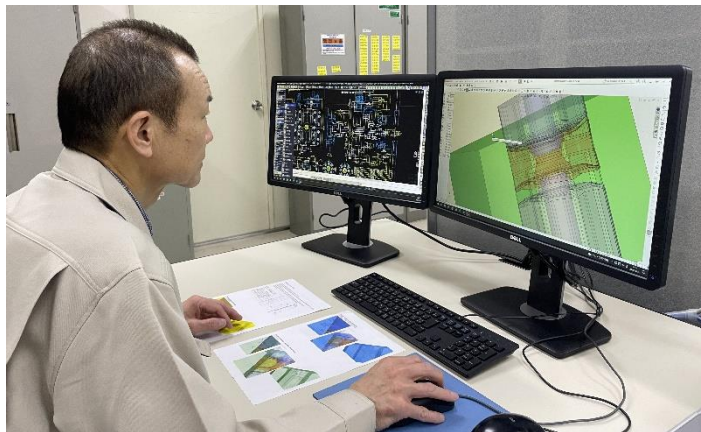
幼少期は農業機械技術指導士であった父に同伴し、高度成長期に機械化していく農業を見て幼いながらに将来はメカに携わるエンジニアになる夢を抱く。工業高等専門学校卒業後、地元オリジナルの自動化機械を設計・製作している企業があることを知り門戸を叩く。

入社後は金型設計に配属となり、当時先駆けの2次元CADで設計・作図。後に時代とともに複雑化する製品形状に対応する為、3次元CADによる設計・作図を導入、実践。

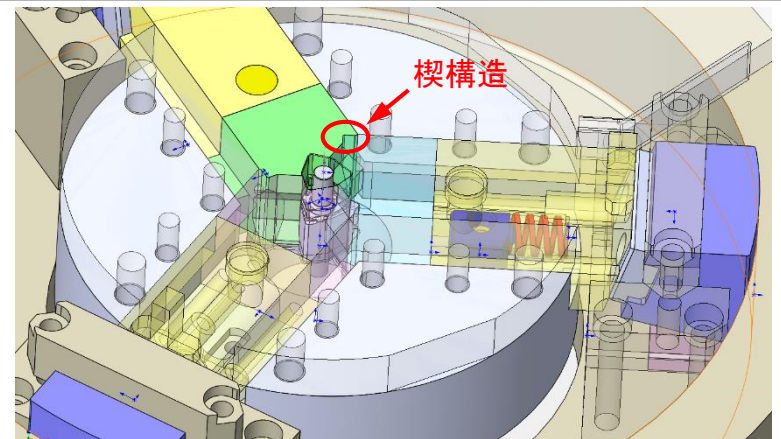
従来の成形では形状が作れなかった側面に凹凸形状を有する成形体を自社開発のCNC粉末成形機で生産する市場ニーズがあり、様々な金型を設計してきた経験、ノウハウ、新しい発想を組み合わせる独創的な型構造を考案し高精度成形を実現。

今後は、ものづくりの喜びを伝えながら後進の指導育成に尽力。

本人近影



[設計作業風景]



[楔構造により型閉時に分割ダイスは中心に位置決めされる]

19	またよし あきもり	81歳	楽器製造工	《名簿番号139》
	又吉 章盛		【又吉三味線店 TEL:090-9475-7634】	一般推薦

○【三線は音が命】

三線は450年の歴史を持つ琉球王国の宮廷楽器。三線には七つの基本型があり、氏は全てを体得し三線工歴55年。伝統を固守しつつ『三線は音が命』を追求し進化した独自技法から生み出される音色(侘び寂び泣音)や音力(遠くまで届く音)、そして、音域(歪の無い高低音)は唄者の声を引出すと愛用者が多い。

氏は三線工として、技を極め音を追求し、技能を伝承するなど、多くの実績と愛好家がいる。

三線工の社会的な認知と地位向上のため、作成した約二千五百丁から厳選し百丁展を開催した。

次世代の人づくりとして「三線製作後継者育成塾」と「琉球古典音楽研究所」を開校中。

○【変化ではなく進化した新しい技法(新しい道具の活用と材の特性を引出し活かす)は進化・発展する伝統】

幼い頃から生活の一部に三線の音と沖縄民謡があった、10代は近所の三線や太鼓等を製作する作業場に興味津々に毎日通う。20代になっても三線の事が頭から離れず、職として三線工を決意し三線基本七型を取得する為、6ヶ所の三味線店にて修行を得て独立開業。特に三線基本七型の与那型に属するチャングワー与那型(初代・喜屋武氏の名より命名、二代目・稲福)の三代目を継承する。

「伝統を固守る箇所」と「新しい道具を活用し進化した技法を追求する」変化ではなく進化・発展する伝統がある。両者の考え方が55年間、試行錯誤し、たどり着いた仕事のやり方。常に材と対話し材の特性を引出す技法が「良く鳴る三線」となる、音を追求する造形から造形美も生まれる。

本人近影



[蛇皮太鼓と棹を接合後の高低調整作業(分当て)]



沖縄県立博物館 主催
手技コンクール「三線の力」出展作品



[三線基本七型の与那型に属する：チャングワー与那型]

20	ばく よんがん	40歳	コンベンションエンジニア	《名簿番号149》
	朴 栄光		【イービーエム株式会社 TEL:03-6893-1754】	東京都推薦

○【医学会の発展に寄与】

医工学の豊富な知見を有し、冠動脈バイパス手術の訓練シミュレータを開発した。現在では、広く専門学会の公式シミュレータとして採用されている。その独自性、希少性の高い技術・技能は医学界の発展に多大な貢献を及ぼしている。

福島県に訓練施設を開設した他、場所にとらわれずリモートで実技訓練できる環境を整備し、後進への指導・育成についても高い評価を得ている。

○【既存の技術を融合させ、新たな仕組みを実現】

「効率的・効果的医療技能トレーニングを世界に提供する」ことを目標とし、早稲田大学大学院在学中に大田区産学連携支援施設において起業。「航空・ものづくり・ビジネス」を駆使して、日本全国・世界のどこへでも手術訓練を一気通貫で提供。航空業界の安全を担保するシステムに着目し、自ら飛行機操縦訓練を継続し、これを医療技能訓練に活用。大学院の医工連携研究、大田区のモノづくり、飛行機の操縦訓練によるノウハウを駆使し、医師・医療従事者、並びに医療機器メーカーの「医療技能訓練ニーズ」に最短最速で対応。

「学会（コンベンション）」における医療技能訓練は世界的にニーズが高いが、シミュレータ、ロジスティクス、Dx、映像配信等、必要な技術分野をすべて自ら活用、融合し新たなコンベンションデザインに挑戦。コロナ禍でもオンライン手術競技会など新たな仕組みを実現。

本人近影



〔小型航空機を操縦し、日本全国に医療訓練を提供〕



〔日本臨床工学技士へのタスクシフト業務実技研修の全国展開〕